



題字 和泉 哲章

(新潟県書道教育研究会理事 新潟市立白南中学校長)

NO、8 令和7年1月14日(火)
発行 新潟県NIE推進協議会事務局

教育 DX の進展と NIE の役割

新潟市教育委員会 教育長 夏目 久義

皆さんは、新聞をどのように活用していますか？かつては、朝起きて一番に目を通す、という方も多かったのではないのでしょうか。しかし、現代では、インターネットやスマートフォンなど、情報を得る手段が多様化し、新聞を読む機会が減っているかもしれません。



とはいえ、新聞には、他のメディアにはない魅力が数多くあります。それは、多様な情報源から得られた情報を、客観的な視点で整理し、深く掘り下げて伝えるという点です。この力は、これからの社会を生きていく上で、不可欠なものです。

近年、教育現場では、デジタル技術を活用した教育が急速に進んでいます。タブレット端末の導入により、学習の効率化や個別最適な学びが期待されています。

しかしながら、デジタル技術だけでは、子どもたちの育成はできません。大切なのはデジタルとアナログの両方を使いこなし、それぞれの良さを取り入れることです。

新聞は、まさにアナログとデジタルの融合を象徴するメディアです。紙面というアナログな媒体でありながら、最新の情報を迅速に伝えるデジタルな側面も持っています。

新潟市では、「人とかかわることを通し、自ら判断・決定し、夢や目標の実現に向かう姿」を育むことを目指しています。新聞活用教育は、この目標達成に大きく貢献します。

新聞記事を通して、子どもたちは、社会で起きている様々な出来事について学び、自分たちの生活とのつながりを意識します。また、記事に書かれた人々の生き方や考え方に触れることで、多様な価値観を理解し、自分自身の生き方を考えるきっかけを得ることができます。

さらに、新聞を活用したグループワークやディスカッションを通して、子どもたちは、仲間と意見交換を行い、協働して課題解決に取り組む力を養います。

新聞活用教育は、単に新聞を読むだけでなく、子どもたちの思考力、表現力、そして社会参画力を育むための重要な取組です。教育 DX の進展とともに、新聞の役割は、ますます重要になっています。

新潟市では、今後も、新聞を活用した教育を積極的に推進し、子どもたちが自ら考え、行動し、未来を創っていく力を育てていきます。

市町村教育委員会を訪問 - 新聞配備を要望 -

令和6（2024）年、新潟県 NIE 推進協議会伊藤充会長と事務局長が、各新聞・通信社の総局長・支局長と共に、NIE に対する理解と協力を得るために新潟県並びに市町村教育委員会を訪れました。例年の新潟県及び新潟市に加え、今年は2つの教育委員会を NIE 研究会開催時に合わせて訪問し、NIE 推進協議会の主な事業概要の説明と学校図書館への新聞配備等をお願いしました。

＜訪問した教育委員会は、以下の通りです。＞

- | | |
|--------------------|---------------------|
| ・新潟県教育委員会（佐野哲郎教育長） | ・阿賀野市教育委員会（小泉明美教育長） |
| ・新潟市教育委員会（夏目久義教育長） | ・糸魚川市教育委員会（靄本修一教育長） |

写真で見る 令和6年度 N I E 実践・研究委嘱校の取組

今年も、実践・研究委嘱校の2年目校による「NIE 研究発表会」、そして1年目校による「まとめの授業研修」が、計画通り実施されました。詳細は、[新潟県 N I E 推進協議会ホームページ「お知らせ」](#)をご覧ください！

＜2年目校「N I E 研究発表会」＞

○ 糸魚川市立田沢小学校（杉田卓裕校長・NIE 担当 早川尚美教頭）



○ 佐渡市立小木小学校（高橋高志校長・NIE 担当 渡邊あずさ教諭）



○ 新潟市立金津小学校（渡邊敏尚校長・NIE 担当 江部壮彦教諭）



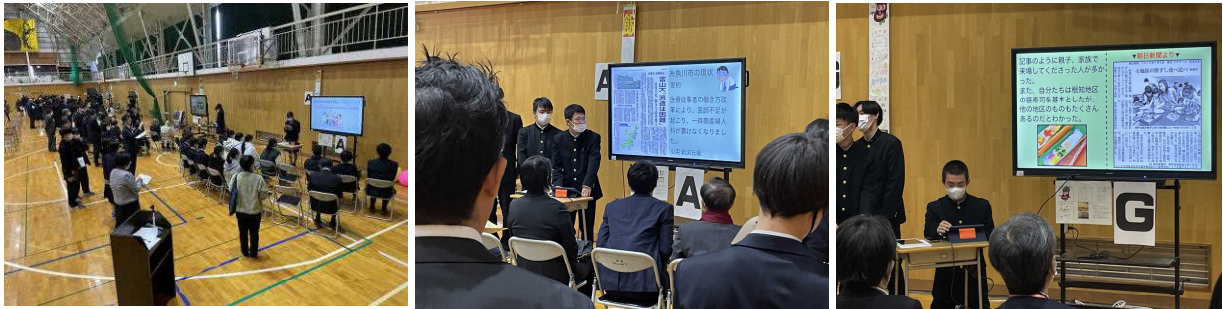
○ 阿賀野市立笹神中学校（村上敏樹校長・NIE 担当 石田溪介教諭）



○ 新潟市立五十嵐中学校（斎藤伸校長・NIE 担当 内山雄太郎教諭）



○ 新潟県立糸魚川高等学校（須戸修校長・NIE 担当 松田彰英教諭）



< 1 年目校「NIE まとめの授業研修」 >

○ 見附市立葛巻小学校（白井敦校長・NIE 担当 金子剛志教頭）



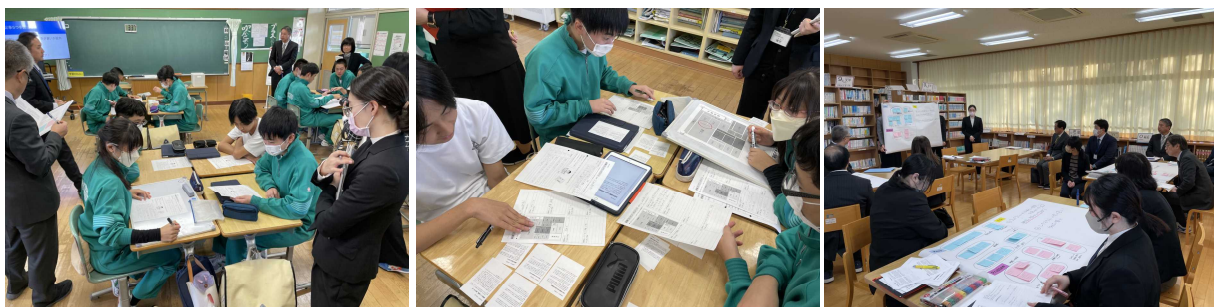
○ 聖籠町立蓮野小学校（藤井政明校長・NIE 担当 高橋亜由美教諭）



○ 新潟市立南万代小学校（平山誠校長・NIE 担当 渡邊裕子教諭）



○ 上越市立中郷中学校（山岸賢一校長・NIE 担当 小林保子教諭）



○ 新潟市立大形中学校（後野孝仁校長・NIE 担当 鈴木昌子教諭）



○ 新潟県立中条高等学校（横堀正晴校長・NIE 担当 杉下英倫教諭）



<編集後記>

事務局として常に肝に銘じていることがあります。それは、「新聞を使うこと」が NIE の目的なのではなく、「子供たちの力を高めること」が NIE の目的であるということです。

改定された学習指導要領では、「新聞」は、数値で示されたような「各種統計資料」と並び称されるほどに「信頼性が高い情報や整理されている情報」として扱われるようになりました。そして、特に「新聞」が例示されるようになりました。それは、「子供たちの力を高める」ために、学習の素材として活用することが有効であるからに他なりません。

課題もあります。NIE の最大の課題は、「日常化」と「家庭の巻き込み」だと考えています。単発的な「その日限りの NIE」でも十分効果はあるのですが、新聞という「信頼性が高く整理されている」素材を「日常的」に教材化し、「家庭と連携」しながら、新潟県の子供たちの力を伸ばしてやることができるようサポートしていこうと思っています。

（新潟県 NIE 推進協議会事務局長 宇ノ井修二）